

1. 評価結果概要表

作成日 平成 20年 4月 22日

【評価実施概要】

事業所番号	2091300018		
法人名	有限会社フィオーレ福祉会		
事業所名	グループホームすずらん		
所在地	長野県飯山市飯山193番地 (電話) 0269-81-3315		
評価機関名	コスモプランニング有限会社		
所在地	長野市松岡1丁目35番5号		
訪問調査日	平成20年4月22日	評価確定日	平成20年5月22日

【情報提供票より】 (平成20年 3月31日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 19年 4月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤14人, 非常勤1人, 常勤換算14.1人	

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	1 階建ての	~	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有 (円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(100,000円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	300 円
	夕食	300 円	おやつ	100 円
	または1日当たり			円

(4) 利用者の概要(平成20年 3月31日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護 1	1	要介護 2	4		
要介護 3	7	要介護 4	2		
要介護 5	4	要支援 2	0		
年齢	平均 84 歳	最低	69 歳	最高	92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	・清水内科小児科医院	・岸歯科医院
---------	------------	--------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

平成19年4月に開設された。グループホームの管理経験のある代表者の熱い思いから立ち上げられた。幹線道路が近くを走り、春には菜の花祭りが有名で、多くの観光客が訪れる。飯山日赤がすぐそばにあり、ホームの周りには住宅・商店が建ち並んでいる。建物は床暖房とセントラルヒーティングで冷暖房され、リビングの天井には原木が使われており、趣のある家になっている。多雪地域ながら快適な生活をする環境は整っている。新規のホームであるが、かなり介護度の高い方々の入居が目立つ。代表者の「地域の中で、入りたいという方々を選ぶことはしたくない」という気持ちに起因しているようである。入居者や家族の気持ちを尊重しつつ、手を貸せばできることを少しずつ行いながら本人の思いをどうすればかなえることができるかを常に考え、寄り添い、家族同様の生活を送っている。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	平成19年4月開設、今回が外部評価初受審であった。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 日々職員から疑問点などが投げかけられている状態の中での自己評価であった。評価項目を張り出して全員が見られるようにした。現場職員より毎日投げかけられる質問等を考慮しながら管理者が作成した。現場職員はまだ1年くらいの期間なので、調査内容を見るだけでも気づきの点が多く勉強になったという。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は開催されているが、ホーム内の体制作りを整えつつの開催であったのでホーム紹介程度で留まっている。今後はメンバーも多方面の方々に参加をお願いし、内容やテーマもしっかりと設定し、話し合いを重ねて行くことが望まれる。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の意見や要望は訪問時などに聞かれており、全職員に伝えられ、改善できることは即対応をしている。新卒の職員やベテランの職員が混在して働く環境で、職員同士が協力し合い、レベルアップするように力を入れている。代表者(管理者)は入居者や職員を守ることが自分自身の使命であるという強い信念を持って運営に当たっている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	代表者(管理者)は地元出身でないことで、開設にあたり地域の方々との交流を多く持ち勉強した。現在も隣組との付き合い、近隣の市町村とのかわりを大切にしている。地域の方のボランティアも受け入れている。地元よりの要望などは可能な限り聞き入れる姿勢を持ち続け、今後は地域の交流の場となることを期待したい。

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念を施設運営方針の中に書き込んである。契約書等に施設運営方針が記載されている。採用時には職員に伝えている。「理念→運営方針→年度計画」の流れを再度認識していただき、見直しの際の参考にしていただきたい。	○	今後わかりやすい言葉・理解しやすい表現で作成をする予定になっているが、地域にも発信していただき、グループホームや認知症についての理解を広めていただきたい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日の連絡時や毎月の定例会などで常に伝えている。職員もホームの方針を理解し、毎日の生活の中で実践している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	代表者は地域の方々に受け入れられることが重要であるとの認識に立ち、行動している。区費の支払い、常会への参加、商工会議所の仕事も請け負い、積極的に地域活動をしている。隣近所の付き合いを重視していることが代表者や職員の言葉の中から感じ取られた。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価の用紙を張り出し、職員が見られるようにした。評価については全員参加でなく限られた人で行われた。しかし、日常支援の中で気づいた点などが現場より毎日のように提案・質問として上がってくるため、それを基に作成された。	○	職員の意見は反映されていると思われるが、自己評価は各々が行うことにより気づき・反省などの機会に繋がる。是非職員にも参加して行っていただきたい。研修的、教育的な効果も期待できるのではないだろうか。

グループホーム すずらん

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	開設1年目、運営推進会議は3回ほど行われている。まだまだ内容は充実していないが、今後メンバーも増やし内容も工夫していただきたい。	○	今後は運営推進委員会のメンバーも多方面の方々の参加をお願いし、会議内容も行事、防災、ボランティア等、テーマを絞って開催されることを提案したい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	設立に当たり市の助言などを沢山いただいている。以後も絶やすことなくお互いに連絡を取り合っている。市よりの要望で長期入院の方がいた時など、ショートを受け入れたこともある。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	1年が経ち、2ユニットすべての入居が滞りなく完了した。職員は次の段階として「穏やかな生活環境づくり」に専念している。現在は毎月の請求と小遣いの収支の報告に終わっているが、入居者の近況などは電話で頻繁に家族へ連絡している。	○	家族にとっては入居者の近況などを文書で報告をしていただけると安心できることがある。ホーム便りや個人の近況報告の手紙を作成するなど工夫していただきたい。情報を共有する場として「家族会」等をつくることも一案ではないかと思う。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会は作られていないが、ホームに訪問された家族には、管理者・現場職員が積極的に話をして要望・苦情などを聞きだしている。また、入居者の思いなどを毎日の生活の中で聞いた時、内容を家族へ伝えている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	パート勤務も短時間労働の形態でなく、常勤者と同じ時間帯で勤務している。入居者の混乱を防ぐ意味で短時間パートは取り入れている。		

グループホーム すずらん

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じた育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は職員の育成にも力を注いでいる。職員は経験や習熟度に応じた研修に参加している。ホーム内でも職員同士のチームワークが良く、お互いに尊重しあい、疑問点などについて意見交換や教え合ったりしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ネットワークに参加している。近隣のグループホームへの訪問・見学など、管理者・職員が交代で行っている。職員は他のホームを見学することで色々な場面を見ることができ、勉強になっていると語った。管理者も悩みなどがあると他のホームへ相談をしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居者の混乱を防ぐような環境づくりを基本に進めてきた。開設当初から、1ヶ月に3人ぐらを目安に慣れ親しみながら順次入居するようにした。家族とホームに来ていただき雰囲気を感じてもらう方法も取った。入居者の気持ちを考えながら、半年くらいの時間をかけ、全室の入居を完了させた。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	お年寄りといっても各々が生活をしてきた場所が違うので、話し方、作法、生活の知恵などを学ぶことがある。		

グループホーム すずらん

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式の帳票にて細かく入居者の生活暦が調べられている。家族に入居者の今の気持ちを伝えている。この夏、「家族との約束」と題して、1人の入居者が希望だった家の草取りを遠くに住む子供と一緒にやる。今後も機会をとらえ、入居者の希望を少しずつ叶えていきたいという意向である。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者や家族の希望を聞き介護計画を作成している。管理者が作成したものを職員に伝えている。ファイルを一括にまとめるなど工夫されている。家族にも介護計画を伝え確認を求めている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	現在の入居者は介護度が高く、状態変化が日々あるような状況である。定期的な見直しのほかに随時見直しもされている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	個人的な外泊の送迎や外出の付き添いを行っており、入居者の方も気軽に依頼できる。病院の受診や入院時の支援についても家族と一緒に職員が付き添いを行っている。		

グループホーム すずらん

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的にはかかりつけ医の継続をお願いしている。協力医・かかりつけ医のホームへの往診が可能である。看護師資格者が2名いるので病院との連絡を密に取り、食べられない方の点滴、胃瘻の処置を行っている。かかりつけ医との連携は常に必要なため連絡体制も整備されている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	食べられなくなってもホームに居させたいという家族の希望が多いという。今後を考え新たに看護師資格者を1名増やし、看護師資格者が合計3名となる。病院・家族・職員との十分な話し合いをし重度化に対応していく姿勢である。今後は重度化への対応についての職員向けの勉強会も強化していく方針である。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	契約書や個人情報に関わるものは鍵のかかる場所に保管している。居室のドアは高い位置がガラスになっているので、プライバシーに配慮しつつ、緊急時にも安心できる造りになっている。職員の声かけは優しく、落ち着いて対応している場面が見受けられた。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	家に帰りたくない方にはまず気持ちを受け入れ玄関まで出かけ、そこでまた気持ちが他に移るように考え行動している。入居者の気持ちを第一に考え行動することを心がけている。		

グループホーム すずらん

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	2ユニットで構成されているが、リビングは中央に設けられていて、全員で食事をしている。訪問した日は入居者の誕生日であり、全員でお祝いの歌を合唱した。派手な食事ではないが、気持ちのこもった見た目にも美しい、気分が明るくなるような料理であった。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	開設当初は家庭風呂のみであったが介護度がかかなり高い方が多いのでストレッチャー等の入浴器具を設置した。希望があれば毎日でも入浴できるという。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日々の活動は手芸、料理、折り紙など、できることをしていただいている。ボランティアの方々による支援もされている。明るく、広いベランダで歌を歌ったり、ひなたぼっこをしたり、お茶を飲んだりして楽しんでいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	お散歩ボランティアの方もいて、職員と共にお天気の日など散歩に出かけている。食材の買い出しも職員と入居者2名位が交代で買い出しに行き、外出する機会をつくっている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	開設当初は帰宅願望の強い方がいたため、家族了解のもと時間帯により鍵をかけることもあった。現在は落ち着いた生活になってきたので鍵はかけていない。		

グループホーム すずらん

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力のもと、防災・防火の訓練を行っている。ホーム独自の通報訓練も行っている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の献立表が作られている。検食記録簿も作られており感想も書かれている。医師よりの指示で水分摂取の記録が必要とされる方については記録をとっている。食事時やお茶の時間に職員が入居者に合わせ対応している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム全体が工夫された造りになっている。照明も落ち着いた感じになっている。リビングにはテーブルが3ヶ所置かれており、必要になればユニットごとのリビングに仕切られる工夫がされている。足の不自由な方用に職員手作りの足置きなどが作られていた。洗面所も車椅子対応用と一般型があり、利用しやすくなっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはクローゼットが付いているので洋服などの収納に便利である。車椅子使用の方も部屋を広く使えている。ベッドが備え付けてあるが、入居者によって使用したりしなかったり、選択は本人の意思に任せられている。		

※  は、重点項目。